

第24回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

【レギュレーション (TD 通達)】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)2023年度版日本ホッケー協会競技運営規程並びに第24回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則 2023年度版(公社)日本ホッケー協会ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、ノンストップ制。
前半20分・後半20分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
但し、交流戦は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
※競技運営上、クォーター制の導入をしない。
4. 試合管理 試合時間は、当該試合TOが管理する。但し、前・後半終了間際に与えられたペナルティーコーナーは、規定の試合時間が終了しても中止されることはなく、それが完遂するまで続けられ終了したときは、アンパイアのホイッスルをもって規定時間の終了となる。
5. 競技方法
 - (1) 全試合トーナメント方式によって実施する。尚、1回戦(初戦)の敗者同士による交流戦を行う。
 - (2) 規定の時間内に勝敗の決しないとき、試合終了後「6.」に定めるSO戦を行い、勝敗を決する。但し、交流戦においては、勝者を決定しなければならない試合を除いては、SO戦を行わない。
6. シュートアウト戦(SO戦)

※ 詳細は、2023年度版日本ホッケー協会競技運営規程を参照

※試合終了後にSO戦を行う場合は、試合終了後5分以内に開始しなくてはならない。

 - (1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から5名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
 - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後両チーム5名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い(計10回)、得点の多いチームを勝者とする。
 - (3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のSO戦を行う。但し、順番は変えてもよい。

7. 試合の中断と再開

天候等やむを得ない理由により、試合が中断された場合は、下記によって試合を再開する。

- (1)再開の試合の場合は、中断した時の得点で残りの時間のみ試合を行う。
- (2)再開の試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。
- (3)その他の事項についてはTDの判断により決定する。

8. チームベンチ

1 チームの編成は、監督 1 名、コーチ 1 名、手当てをする者 2 名 (大会開始日に 20 歳以上)、選手 22 名以内とする。チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることはできない。(但し、U15 カテゴリー部会申合せ事項およびTDの許可を受けた者はこの限りではない。)

※選手は 1~22 の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※エントリーの際、各都道府県の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームで JHA のチームスタッフ登録を済ませていること。尚、チームの監督またはコーチのどちらかは、日本スポーツ協会公認コーチ 3 以上の資格を有するものであること。また、手当者も JHA チームスタッフ登録を済ませること。チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることができない。(但し、学校長、ベンチには入れない 3 年生等、TD の許可を受けた者はこの限りではない。このことは代表者会議で確認する。)

9. フィールドへの立ち入り

- (1)試合中は、当該審判員・試合に出場している選手以外は、誰もフィールド内に入ることはできない。但し、当該審判員の許可を得た者は、フィールド内に入ることができる。
- (2)試合中、選手に怪我等が起こった場合は、スターティングリストに明示された手当てする者の中から 1 名と監督の最大 2 名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入場することができる。フィールドに入場している間は、選手に対してコーチングをしてはならない。
- (3)コーチングはチームベンチ、コーチングエリアからのみできる。

10. 選手の交代

- (1)選手の交代は、その試合にエントリーされた者の中から選ばれる。
- (2)各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)
- (3)選手の交代は、何回行ってもよい。
- (4)一時退場させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
※今大会、グリーンカード警告のみ、イエローカード 3 分又は 6 分とする。
- (5)選手の交代は、テクニカルテーブル前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行われぬ。ただし、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

11. 確認事項

- (1) 今大会では「スターティングリスト」を試合開始45分前までに本部に提出すること。
★試合開始15分前に、「次試合テント」で待機する。次試合テントでは、競技役員により選手確認、リングパス、服装・装具の点検を行う。尚、リングパスについては各チーム最初の試合のみ行う。(シールで対応)
- (2) ペナルティーコーナーで使用する保護具は試合開始前に事前に当該試合 TO に使用確認すること。尚、怪我を防止するため、フェイスマスク等の使用を奨励する。
また、可能な限り感染予防のため防具の共用を避けるのが望ましい。
- (3) 各チームのプレーヤーは正規の番号をつけ、大会期間中は変更できない。
- (4) キャプテンは、上腕部、肩、ソックスの上部のいずれかに必ずキャプテンマークをつけること。
- (5) ロングスパッツ、アンダーシャツについては、U15 カテゴリー部会での申合せ事項を優先する。
※ロングスパッツは禁止、アンダーシャツを着用する場合は各チームで全員が同じ色のものを着用しなければならない。着用と非着用の選手が混在していてもよい。
- (6) ユニフォームは必ず2着用し、試合会場(ベンチ)に持参すること。
- (7) 選手は、すね当てを必ず着用してストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。
- (8) マウスガードは必ず装着すること。(GKは義務対象外)
※「未着用届」が提出されている選手については、着用を免除する。
- (9) 今大会ではフル装備のゴールキーパーを必ずおくこととする。フル装備のゴールキーパーは、怪我の防止のため装具を完全に着用すること。特にアンダーパッドは必ず装着すること。(チームの責任で遵守すること)
- (10) ベンチは、[競技日程表]の左側チームがテクニカルテーブルから見て左側とする。
- (11) 全試合とも「人工芝コート」で行うので、「ポイントスパイク」の使用は認めない。
- (12) 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は厳に戒める。
(監督・コーチ・担当者・応援団についても同じ)
- (13) 今大会において、抗議制度はない。応援者は、大会実行委員会およびU15 カテゴリー部会の指示に従うこと。(保護者など応援者からの抗議等には一切応じない。監督は、保護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。)
- (14) 選手が負傷により、ベンチより誰か(ストレッチャーを含む)が選手の手当てのためにフィールド内に入場した場合は、その選手はフィールドを出てから試合時間で2分間以上、ベンチエリアに留まらなくてはならない。(ゴールキーパー除く)
- (15) 競技中の疾病・傷害等については、大会本部で応急処置を行うが、その後の治療等はチームの責任において行うこと。「負傷・事故報告書」の提出)
- (16) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書を TO または TD に提出する。本人への健康確認の上、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書を大会事務局に提出(郵送)すること。
- (17) 試合開始時に7名未満の場合、試合を棄権した場合は、その試合は没収試合とする。没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。(得点は5対0で相手チームの勝利とする)
- (18) 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルですみやかに10分以内に署名すること

と。

- (19) 代表者会議終了後、「行動規範確認書」を各監督は提出する。各監督は、JHA 競技運営規定付属書の行動規範を確認しておくこと。
- (20) その他、本規定に定めのない事項または不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。
- (21) 今大会では選手・スタッフは、IDとして『会員証一括印刷』により印刷をした顔写真入りの会員証を各自または各チームで準備したネックホルダーに入れ、常に首からかけておくこと。
(カラーまたは白黒印刷は問わない)

12. ルール確認

《(1)~(5)2019 変更の再確認、(6)2022 修正、(7)~(8)2021 新規変更、(9)2022 追加》

- (1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→P S
- (2) サークル内における守備側のF Hは、従来通り反則地点のサークルトップ(14.63m 地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能。
- (3) サークル付近の攻撃側 FH の場合、FH が即座に行われなかった場合は、守備側選手はサークル内であってもリスタート地点から 5m 離れる。(常に 5m 離れようとする指導を奨励)
- (4) PC 完遂の条件から「サークル外に2回出る」の要件を削除。PC 完遂(PC状態の解除)要件で「ブリー」の項の削除。
- (5) PC において攻撃側のフライングは、罰則としてパッサーがセンターラインに戻される。
- (6) 守備者が PC 用の防具を取り外す適切な機会がなかった場合、23m のエリア内にいる間、ペナルティーなしで防具を着用し続けることができる。すべてのプレーヤーは、23m のエリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。
- (7) GK の肘用防具については、覆わなくてもよくなった。
- (8) ブリーによる再開方法について、スティックの平らな面を軽く 1 回打ち合わせる方法となる。
- (9) 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、5 mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、危険と判断された場合はこの限りではない。
- (10)ペナルティーコーナーが与えられたとき試合時間は停止されない。準備のための40秒の計測はしないが、守備側プレーヤーのフェイスマスク、保護用グローブ、膝当て等はすみやかに装着すること。

13. 感染症拡大防止対策

本大会では、特別の感染拡大防止対策は行わない。ただし、発熱で感染の疑いがある選手については医療機関を受診し、医師の判断を仰ぎ、TDに相談すること。なお、引き続き各チームは感染防止に努めること。

◆試合開始時・終了時のセレモニー

《開始時》

試合開始2分前に「テクニカルテーブル前整列」～「トス」～「テクニカルテーブルあいさつ」

～ 「コートへ散る」

《終了時》

「センターであいさつ」～「わかれ」

※時間短縮のため、テクニカルテーブル・相手チームへのあいさつは行なわなくてもよい。